

RS ウイルス感染症

○どんな病気？

RS ウイルス(Respiratory Syncytial virus)感染症は、冬から春にかけて毎年流行する冬のかぜの一つです。感染力が非常に強く、1歳までに約70%、3歳までにはほぼ100%のお子さんがかかります。呼吸機能が未熟な乳幼児（特に6か月未満の赤ちゃん）が初めて感染すると、気管支炎や細気管支炎となって重症化する場合があり、注意が必要なウイルスです。

一度かかっても免疫が十分にできないので、何度も感染しますが、繰り返し感染しながら徐々に免疫ができ、症状は軽くなります。児童や大人でも感染しますが、通常のかぜ症状のみで終わることがほとんどです。

○潜伏期間：2～8日

○感染経路：2つの経路があります。

- ・飛沫感染：くしゃみ、咳などで空中に飛び散ったウイルスを吸い込んで感染します
- ・接触感染：鼻水や唾液がついた衣服、おもちゃ、ドアノブなどを触った手で目、鼻や口を触ったりすることで感染します。（4～7時間は感染する可能性があります）

○主な症状

- ・発熱：38～39度の熱が4～5日続くこともあります。
- ・咳、喘鳴：ゼイゼイしたり、せき込んで嘔吐したりします。
- ・鼻汁：大量の鼻水が出ます。鼻がつまって眠れないこともあります。
熱が下がって、咳・喘鳴などの呼吸症状がしっかり落ち着いて、いつもの元気、食欲を取り戻すのに7～10日間かかります。

○診断：鼻水を綿棒でとって、迅速検査を行うと、15分で結果が出ます。

○治療：ウイルス感染なので、根本的な治療方法はありません。

- ・鼻水、咳、喘鳴、熱に対して症状を緩和するお薬や吸入を行います。
- ・食事はのど越しの良い物にしてあげてください。赤ちゃんは母乳・ミルクが飲めていたら、離乳食は無理しないでください。
- ・咳・鼻閉には加湿、鼻水が多い場合は、鼻汁吸引も大切です。
- ・入浴は体力を失いますので、熱が下がってから入りましょう。

○合併症

- ・気管支炎、細気管支炎

特に6か月未満の赤ちゃんは、重症になりやすい傾向があります。

- ・中耳炎

○登園

熱が下がって、咳・喘鳴、鼻汁が落ち着き、食事や睡眠が十分にとれるようになってから行きましょう。

○こんな時には、すぐに救急受診を

呼吸症状が悪くなったら（下記の症状が一つでも見られたら）、すぐ救急受診をしてください。休日や、深夜でも救急受診をおすすめします。

赤ちゃんの呼吸症状が悪くなっているサイン

- ・ゼイゼイ、ヒューヒューして苦しそう
- ・呼吸が早い、胸やおなかをペコペコさせて呼吸をしている。
- ・おっぱいやミルクが飲めない
(ミルクや母乳が飲めない、飲んでも咳込んで嘔吐するなど)
- ・機嫌が悪い、笑わない
- ・眠れない



さくらキッズくりにっく
sakura kids clinic